



くまざわ なおき
熊沢直紀 議員

KUMAZAWA Naoki

Q. 無駄な大型避難所にならないか

A. 計画通り進める方針

豊山町臨空第2公園基本計画について、青山地区に700人規模の避難所を造る計算が間違っている。以前は避難者数1人当たり2平方メートルの面積が必要であったが、現在は3.5平方メートルとされている。青山地区の不足分の避難者数は417人である。現状の計画案で計算すると、840人規模になる。

◎ 過去19年の大雨災害の避難者数実績では、豊場地区では合計で3人、青山地区では27人と少なく、大雨被害の避難者数は極めて少ない。なおかつ、大雨被害の避難対策も十分に考慮されている。

南海トラフ地震に関しては、豊山町地域防災計画の被害想定として、南海トラフ地震発生時後の避難者数の想定が1日後の避難者数は50人、1週間後の避難者数は1300人とされている。按分すると、青山地区は250人となり、熊本地震を参考に「1人あたり1.5平方メートル」の面積が必要とされている。

車中泊が127人と想定され、北館さんかの想定避難者数175人で十分間に合う。このままでは、無駄ではないかと思われる大型避難所施設を造ってしまうことになり、高額な建設費や維持費による町財政への圧迫が懸念されるため再考を問う。

◎ 産業建設部長
さまざまな説明や決定経緯を経て進めてきたので、このまま事業を進めていく。施設整備の発注にあたっては、建設費の高騰や人手不足、埋蔵文化財本発掘調査結果、町の財政状況などを見極めながら進めていく。町財政負担の軽減に向けさらに検討を進めていく。

◎ 産業建設部長
民間事業者を公募により選定するパーキング制度の活用を検討している。

◎ 賑わい施設の進捗状況は。

Q. スカイプール開場の見通しは

A. 令和7年度の再開は難しい

◎ スカイプールについて12月議会で町長は「スカイプールは今後、再開を含めた方向性を慎重に検討していく。施設の安全性確保や運営財源の確保が課題であり、改修費用や利用料金の見直し、駐車場確保策などを含む具体的な計画を進めていく。町外利用者の料金設定を含む持続可能な運営手法の模索も進めていく。」と答弁された。

◎ 入場料の値上げ改正（条例改正）、指定管理者の決定など諸問題があるが、どのように解決をしていくのか、令和7年度にスカイプールは開場できるのか伺う。

◎ 町長
令和7年度の営業再開は難しい。タウンミーティングを開催し、住民の皆さまの意見を伺い、対応策を検討していく。



臨空第2公園の建設予定地